

## ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 村林 裕

作成日 2020年9月17日

改訂 2020年10月24日

### 【責任】

学部長として、今学期の運営と、3-5年後の商大のあり方を計画し、実行すること。学生が、商大で学んだことに喜びと誇りを感じてくれるように、教職員がそうした学生を育てることに邁進できるように。その舵取りが私の責任と考えています。

さらに、2020年4月スタートの新コース「スポーツマネジメントコース」の存在価値を高めることが、私の責任です。横浜市内の各企業・各団体との関係を構築し、地域から期待される（商大の学生は面白い、商大の学生と一緒に活動すると楽しい、商大が横浜のキーの存在だ）大学となることです。

野球部長の任にあり、本学の学生から応援してもらえる野球部になることが、私の責任です。本学の学生ならびに卒業生が、「うちの野球部」といって、楽しそうに誇りとして語れるようになることです。

### 【理念】

- ・大学は大学生が楽しむ場であって、教員が強制するものではない。
- ・人として生きていくために、学んでおくべきことを、伝え続ける。

### 【方針・方法】

<方針1> 学生が4年間をふりかえって、楽しかったといえる大学生活を過ごせるように行動、発言する。

方法1. 致命的な追及はしない

方法2. 部活動に関心を示す

方法3. 授業開始に遅れず、時間を守ることを身をもって体現する

方法4. ミスはする、その後の対応が大切であることをくりかえし説明する

方法5. 欠席・遅刻・提出遅延の申告・理由の申し出を徹底する

<方針2>①してよいこと／してはいけないことの区別を身に着ける、②自分のしたいこと  
ならびに、したことを言葉にして説明することを覚える、③計画したことを最後  
までやり遂げることを体感する。

方法1. わかってもらえないのではなく、わかってもらえる努力を諦めずに最後までするこ  
との大切さを伝える

方法2. やらせっぱなしでなく、経過をフォローし、ある時はリードする

方法3. 文章を書く機会を多くし、テーマを決める力をつけることができるようにする

方法4. 自分の述べたいことを発表する機会を多くもつ

方法5. 手紙を書く

方法6. 本を読み感想文を書く

### 【評価・成果】

- ・オンライン講義の学生調査の春学期の結果（全体）満足／不満足が51／49であったこ  
とを忘れず、秋学期は大幅に満足が不満足を上回ることを目指す。
- ・担当授業にたいする学生の声：充実している授業との評価が少なかったことを、技術  
的未熟さだけを原因とせず、学生に通じなかった点が多いことを自覚し、向上心をも  
って取り組む
- ・野球部内の変化：退部者激減という変化はあるものの、在学生からの支持をうけるに  
は至っておらず、1年・2年をかけて、辛抱強く実現する
- ・ゼミ生の変化：学年ごとに様相が異なる。4年生のプロジェクト研究には、秋学期か  
ら新たに加わったメンバーならびに3年編入中国人（3学期目）もおり、チームづく  
りは難しいが、大学生活の最終学期をより充実した日とすべく努める。2020カリキュ  
ラムにてプロジェクト研究が廃止されることをふまえ、ゼミナールのありかた、留学  
生対応を考える機会ともなっている。就活におけるゼミナールの先生方の役割が大き  
いことに改めて気づき、ゼミナール体制の課題は重要課題と認識する契機となった。

### 【目標】

- ・各教員と、商大のこれからを語り、方向性を共有する。
- ・商大の価値を上げ、入学を希望する高校生を増やす。2020年度・2021年度入学者数を  
抑制したうえで、2024年度18才激減対策に万全を期す。
- ・商大の特徴を文字化して、内外に公表し、認知度・注目度を上げる。
- ・企業訪問がコロナ禍の理由もあり、全くできていない。年明けを機に、毎週2社＝

年間100社を目標に、次の企業との関係構築を図る。

スポーツ協会、プロチーム、各区スポーツセンター、商工会議所会員企業、  
新聞社支局、中小企業家同友会、

- ・就職内定率の厳しい現実の解決策として、ゼミの先生のご協力をえて、未内定者にキャリアセンターへの相談・利用を薦めることに努める。この事情は、来年以降も続くと予想され、キャリアセンターの体制の充実とともに、学生の利用促進を図る必要がある。そのためには、ゼミナールの先生方の理解と協力が大切であり、その説明は学部長の役割である。

以上